

**家計の困窮が才能ある受験生の進学行動にどれほど影響を与えているか**

——2010年夏・長崎県における調査で正確な推定値を算出——

**概要**

丸野俊一九州大学理事・副学長、渡辺哲司九州大学高等教育開発推進センター准教授らによる調査の結果、2010年夏現在、長崎県では、県外の主要大学へ進学できる学力・意欲をもつ高校3年生のうち3%が、家計の困窮のために大学進学そのものを諦めるかもしれないことが分かりました。また、その割合には地域差があり、長崎・佐世保の両市では2%前後、他の地域（離島、旧郡部）では5-6%でした。それらの数字は「ほぼ悉皆」調査<sup>(注)</sup>によって得られた、かなり正確なものであり、地域の実情を踏まえた現実的な対策につながることを期待されます。

**背景**

本学の「高校向け窓口」であるアドミッションセンターでは、近年、地元九州で次のことを感知していました：

- ① 高い学力・意欲をもつ高校生の中に、家計の困窮を主な理由として、自県外にある主要大学への進学をためらう生徒が一定数いること。
- ② そのような生徒の割合は、とくに都市部を除く地域で大きいこと。

今次の不況下、①②のようなことを数量的に裏付けるデータは少なく、しかも県単位ほどの規模で集中的に調べた前例は、ほとんど存在していません。

**内容**

2000年以降、複数の卒業生が九州大学へ進学した長崎県内の27高校へ質問紙を郵送し、生徒の進路指導を担当する教師に下記項目について回答を依頼しました。

- ・2010年8月現在の高校3年生について、

[a]国内の主要（目安として「旧帝大」レベルの）大学に進学できる学力・意欲をもっている生徒数

[b] [a]で答えた生徒数のうち、家計の困窮を主な理由として進学先を地元の大学に変えるかもしれない生徒数

[c] [a]で答えた生徒数のうち、大学進学自体を断念するかもしれない生徒数 ……など

- ・あわせて、具体的な経済・進学支援策のアイデア等を任意で募集（当日配布資料参照）

その結果、2010年夏現在、長崎県では、県外の主要大学へ進学できる学力・意欲をもつ高校3年生のうち3%が、家計の困窮のために大学進学そのものを諦めるかもしれないこと等（上記「概要」参照）が分かりました。

**効果**

今回の調査から、下記のことが効果として挙げられます。

- ・エピソードや風評などにも影響されつつ「ムード」的に知覚されてきた事象が裏付けられました。
- ・県単位の集中的な調査によって、広域のサンプリング調査では得られない正確さの数値が得られました。
- ・焦点を「主要大学」に絞ったことで、九州大学（および同種の大学）にとって直接的に参考となる情報が得られました。
- ・教師－生徒間の濃密な関係（地域特性の一つ）を活かした簡便な調査方法を提示することができました。

また、以上のことから、本調査結果に基づき、長崎県および九州大学（ひいては周辺地域や他大学）において、問題の正確な把握や、問題への冷静かつ現実的な対処が進むのではないかと期待されます。

## ■今後の展開

今後は、同様の調査を九州他県へも拡大して実施できないか可能性を探り、究極的には九州にある九州大学らしい・九州大学ならではの手法で、経済支援にとどまらない総合的な地域の教育振興へとつなげていくことを目指します。

### 【用語解説】

- ・ 悉皆調査——母集団（この場合は、2010年現在で国内の主要大学に進学できる学力・意欲をもつ長崎県の高校3年生のすべて）を丸ごと調べる。本調査を「ほぼ悉皆」というのは、対象となった27高校の卒業生が、2000年以降に長崎県の高校から九州大学へ進学した人のうち92.2%を占めているため。
- ・ サンプル調査——母集団の一部を抽出して調べる。全国調査などで一般的に採用される手法。

#### 【お問い合わせ】

高等教育開発推進センター准教授 渡辺 哲司

電話：092-642-4490

FAX：092-642-4485

Mail：watanabe@rche.kyushu-u.ac.jp

九州大学は2011年に100周年を迎えます



KYUSHU UNIVERSITY 100th 2011  
知の新世紀を拓く